

# 中学生連載企画 私たちのふるさと松山学 No.11

## 久谷中学校 久谷校区とお遍路さん

久谷中学校の校訓は、「自主・協力・奉仕」です。私たちはこの一つの「奉仕」の心のもと、いろいろなボランティア活動に取り組んでいます。久谷中生の奉仕の心は、最近になって宿ったものではありません。それは遠い昔から行われていた、お遍路さんへのお接待から受け継がれてきたものです。今回私たちが生徒会のメンバーは、お遍路さんについて調べました。

### お遍路さんの始まり



三神 真尋さん (2年)

お遍路の始まりは、約1200年前、弘法

大師空海が42歳の時に、仏道修行の場として四国八十八ヶ所霊場を開いたことと伝えられています。

久谷校区には八十八ヶ所の寺のうち、第四十六番札所の浄瑠璃寺、第四十七番札所の八坂寺があり、遍路道を示す道しるべが至る所に残っています。また、多くのお遍路さんを登下校中に見かけま

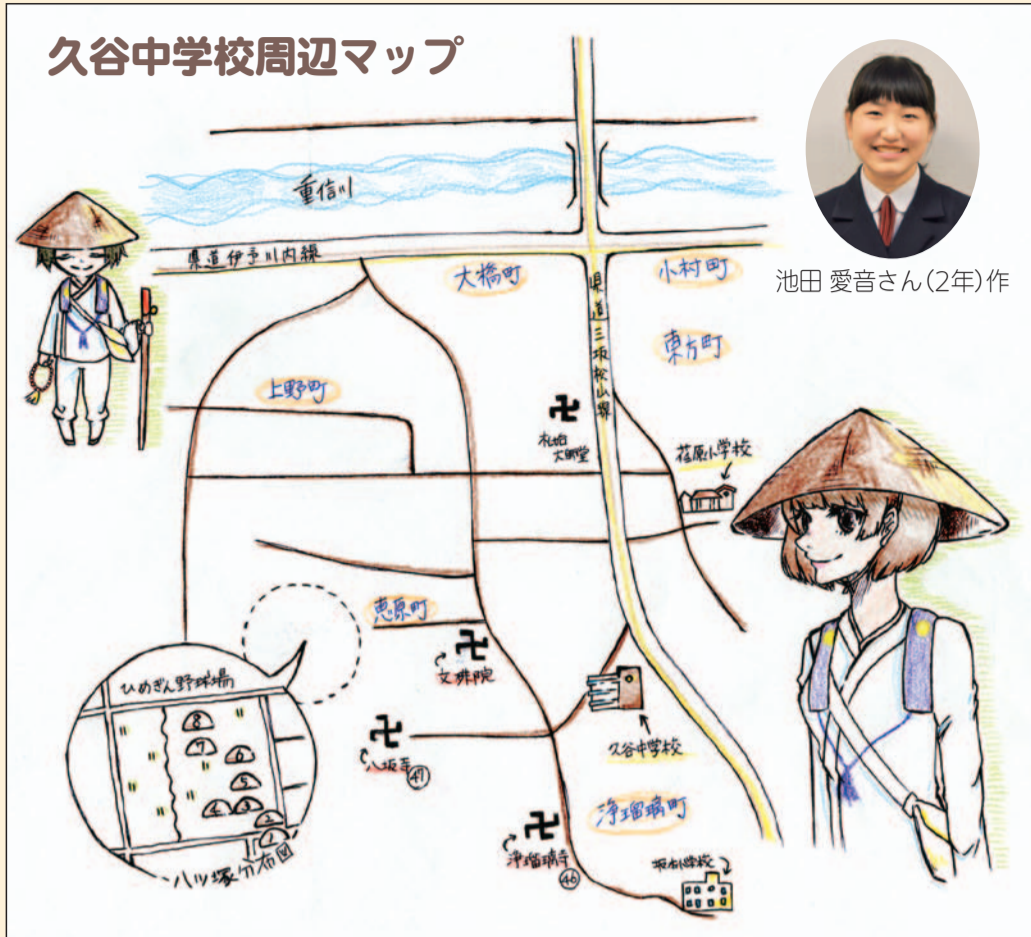
### 文殊院



八坂 光起さん (1年)

文殊院は、824(天長元)年、弘法大師が建て、この寺から四国八十八ヶ所を巡る「お遍路さん」が始まったといわれています。元々は、四国遍路の元祖といわれる河野衛門三郎の邸宅がありました。

境内の本堂は、中央に仏名が不明の文殊菩薩、両脇に地藏菩薩、面脇陣に仏像があります。さらに大師堂には、秘仏の大師像が、毘沙門堂には、元旦に開帳される、毘沙門天像があります。



文殊院

### ハツ塚群集古墳



谷本 倭太朗さん (1年)

墳丘の形は、後世の開発によって変形しているようですが、直径約7mから14mの円墳と、一辺10m程度の方墳が半数ずつです。石室は未調査のため明確ではありませんが、横穴式石室と推察され、



ハツ塚群集古墳

古墳時代終末ごろのものと考えられています。この塚は、衛門三郎の8人の子を祭ったとの伝説も残っており、塚の頂に小祠が置かれ、石地藏が祭られています。

### 札始大師堂



尾崎 龍雅さん (2年)

弘法大師は、文殊菩薩の教えを実現するために小村に「わか作り」の草庵を建てました。そしてここを拠点に、衛門三郎の門前をはじめとする近隣各地を托鉢してまわりましたが、衛



札始大師堂

門三郎は大師とは知らず追い返そうと大師の鉄鉢を叩き割りしました。

すると、衛門三郎の子ども8人が次々死んだため、衛門三郎は小村の草庵に残された大師の木像に何度も詫言、木を削いで札を作り、自分の名を記して堂に納めたという伝承があります。

これが納札の始まりといわれ、この草庵を「札始大師堂」と呼ぶようになったそうです。

### 地域の風景を大切にしたい



北村 俊貴さん (2年)

お遍路さんが歩く姿は、久谷校区の風景と相まっており、お遍路さんは私たちに託してても身近な存在です。

今回、そのいわれや遺跡について自分たちで足を運び学んだことで、改めて久谷校区の魅力に気が付きました。これからも奉仕の心や地域の風景を、大切にしていきたいです。

### 接待木のお世話とお遍路さんのお接待



門田 愛未さん (2年)

「少しでもお遍路さんの役に立ちたい」私たちは、そんな思いでお接待の活動に参加しています。

路道周辺に植えているもので、接待木の除草引きやゴミ拾いなどの清掃と肥料やりなどを行っています。通りすがりのお遍路さんとの交流もあります。活動に参加した私たちは、「おもてなし大使」に任命していただきました。

接待木のお世話



おそうめんの接待



### 先人と文化の読み物教材 「語り継ぎたいふるさと松山百話 I・II・III」



松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることが出来ます。